子どもが中心

フランスやスペインでの調査では、子どもを対象とした食の教育が熱心に行われている様子がうかがえました。

日本国内でのアンケート調査では、和食文化を伝えていく上で、子どもとともに家庭の主婦が大事との結果になっていますが、これらの国では、学校で学んだ内容を子どもたちが家庭に持ち帰って親に伝え、それが家庭に浸透していき、食文化が継承されていくという考えが強くあるようです。

そのやり方も、ラップのリズムに食に関する歌詞を乗せて歌う子どもたちの姿をSNSで公開するなど、子どもが楽しみながら食に対する理解を深められるようなものとなっています。

●和食文化には何をどこまで含めるべきでしょうか。

検討会では、保護・継承の対象となる和食文化に何をどこまで含めるべきかについては、どんな理由で、誰を中心的な担い手として考えるかによって変わってくるとの議論がありました。そこで、検討会では、ユネスコ無形文化遺産登録はあくまで保護・継承に取り組む「きっかけ」と位置付けた上で、広く国民全体が、主体的に楽しんで取り組めるものとする観点から、保護・継承の対象範囲を整理すべきとされました。

一方、アンケート調査では、保護・継承すべき要素として、「だしや発酵調味料などの旨みを求める技術」に最も多くの票が集まりました。また、意見交換会では、「『いただきます』など素材に感謝する気持ち」、「ご飯を中心に味噌汁・おかずが並ぶ一般的な献立」などを和食文化に不可欠な要素とする意見が各地で出されました。これらの要素は、ユネスコ無形文化遺産に登録申請をした際の和食文化の特徴に深く関係するとともに、私たちの普段の食卓を構成する要素でもあります。

こうしたことを踏まえ、検討会では保護・継承の対象となる和食文化の範囲については、和食文化の基本的な特徴をベースに私たちの普段の食生活も考慮し、可能な限り具体的に分かりやすい形で共有していくことが大切だとされました。

誰が中心となって、和食文化を担っていくのでしょうか?

△ これまで、ユネスコ無形文化遺産登録のための活動を進めてきた人。

○ 日々、和食文化に接するすべての日本人。特に次世代を担う子どもたちとその親など、家庭においての作り手、伝え手、食べ手となる人。

国民運動として和食文化を守り、つないでいく理由とはなんでしょうか?

△ ユネスコ無形文化遺産に登録されたから。

○ 健康的でおいしいと世界から絶賛される和食文化の母国として、変化の激しい時代でも、食材・技と知恵・作法を守り、つなぎたいから。

○ おふくろの味や、ふるさとの伝承料理をつないでいくことで、家族や地域との絆を深めたいから。

和食文化には何をどこまで含めるべきでしょうか？

●ユネスコ登録申請時の和食文化の特徴をベースに考えるべき。

●現代日本人の普段の食生活も考慮しつつ、可能な限り具体的に、わかりやすい形で整理することが必要。

●和食文化の輪郭を明らかにする

これまでの考察を踏まえ、和食文化の担い手である私たちは、和食文化として保護・継承に取り組むこととする対象範囲をどのように考えたらいいでしょうか。

ここでは、検討会の議論を踏まえ、ユネスコ無形文化遺産登録申請の柱とされた和食文化の特徴を、誰もが共有できるよう具体的な写真で表しました。その一方で、多様化した私たちの現代の食生活にしばしば登場する対極にあるような要素を言葉で表すことで、あえて和食文化と位置付けられないものを明示し、和食文化の輪郭を際立たせようと考えてみました。

こうした検討を通じてわかるのは、我々の和食文化は一年間を通じた四季の移ろいや、人の一生を通じた時代の移ろいを様々な形で反映したものであること。例えば、おせち料理には、家族の健康を願う「黒豆」や子孫繁栄を願う「数の子」を使うなど、自然への感謝や生活への祈りが込められています。

和食文化の底流には、自然の尊重という精神とおもてなしの心があると言えるのではないでしょうか。

和食文化の特徴

多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重

↕

風味が失われた食材

健康的な食生活を支える栄養バランス

↕

偏った食事

自然の美しさや季節の移ろいの表現

↕

季節感のないメニューと体裁

正月などの年中行事との密接な関わり

↕

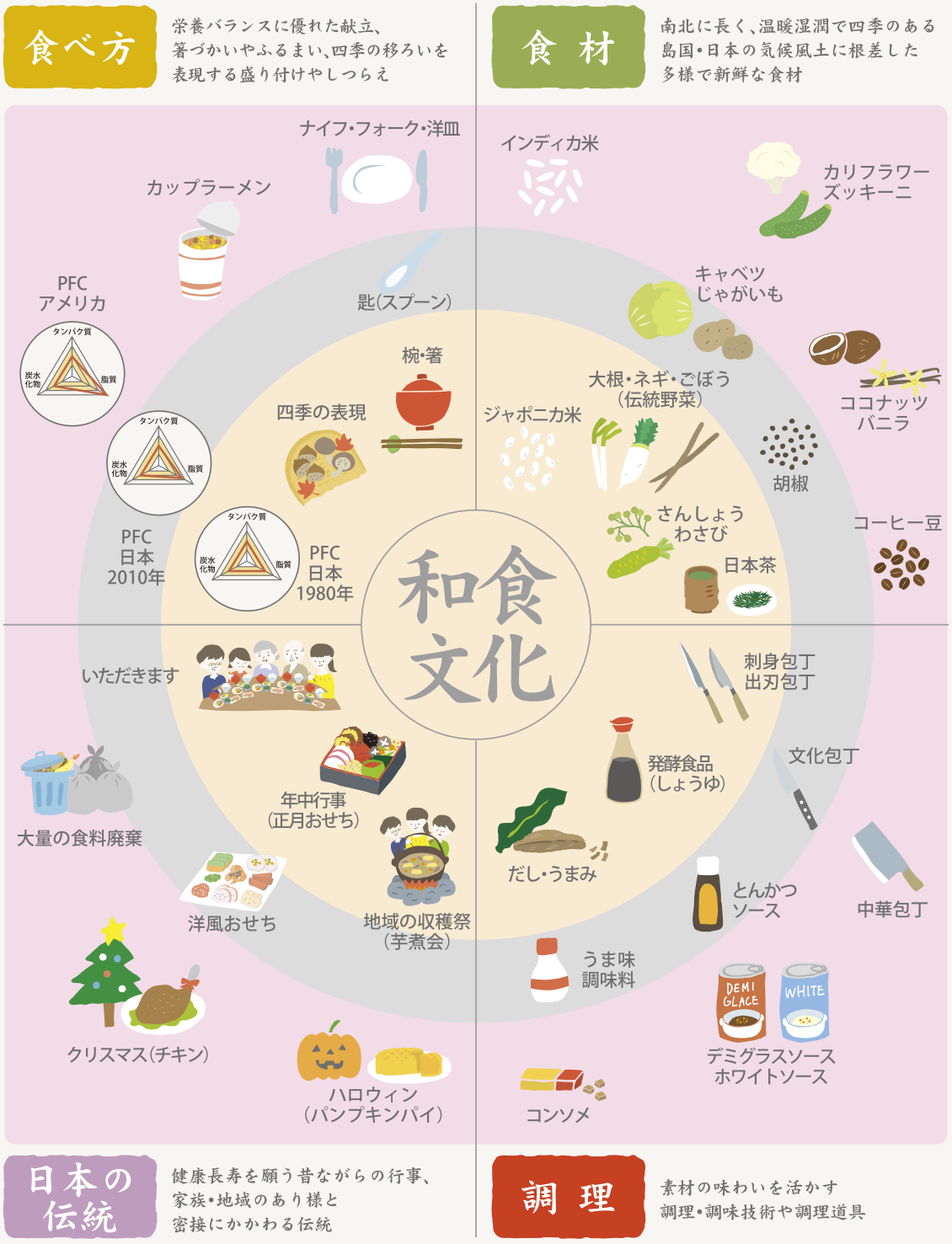
集いのにぎわいがない孤食

言

現代の私たちの食生活には、和食文化とその対極的なものとの間にグレーな存在があり、このことにより豊かな食生活を実現できている面もあります。発展・進化する和食文化の対象範囲を考える上では、この存在に光を

要素ごとの分類

○和食文化を構成する要素を、「食材」、「調理」、「食べ方」に加え、和食文化の底流にある自然の尊重という精神とおもてなしの心を表す項目として、「日本の伝統」を加えた4項目に分かりやすく分類した上で、和食文化との関係性の強弱によって中心から周辺に向かって配置しました。

○個々の要素単位でみると、グレーな存在はそれほど多くありません。では、個々の要素の組み合わせで行われる実際の食事はどうなのでしょうか。（左ページへ）

和食文化を構成する核となる要素とその周辺要素（試案）